資料２

平成29年度　佐賀県立有田工業高等学校　学校評価結果

1　学校教育目標	2　本年度の重点目標
平和で民主的な社会の形成者として、個性豊かで人間愛に満ち、国際的視野に立って社会に貢献できる、心身ともに健全な人間を育成する。 ・地域を愛し、地域から愛される有工生を育て、地域に根ざした学校として更なる発展を目指す。 ・学力の向上を図るとともに、文武心三道確立を目指し、光り輝く有工生を育てる。 ・夢や目標を持ち続けるチャレンジ精神豊かな有工生を育てる。	①　挨拶、服装、マナー指導の徹底と思いやりの心の醸成 ②　学力向上対策の推進による進路保障 ③　生徒会活動、部活動の活性化と文武心三道の確立 ④　UDと5S運動（整理　整頓　清潔　清掃　躾）の推進 ⑤　保護者、地域、産業界との連携強化と特色ある教育の推進

達成度　A：ほぼ達成できた
B：概ね達成できた
C：やや不十分である
D：不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3　目標・評価

①挨拶、服装、マナー指導の徹底と思いやりの心の醸成

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	●心の教育（社会規範定着マナー向上）	基本的生活習慣の向上	外部評価のアンケート結果において「4（よくできている）」の割合60%以上をめざす。	学校生活チェックシートを活用し生徒の服装や学校生活についての意識向上を図る。また毎日の登校指導において挨拶を交わし挨拶についての意識向上を図る。	B	「4（よくできている）」の割合はあまり変化はなかったが、服装・頭髪については若干ではあるが向上している。 登校指導時はよく挨拶をしているが、校外での挨拶が少ないように思われる。	少しではあるが改善がみられるため、今後も根気よく学校生活チェックシートを活用し、生徒の服装や学校生活についての意識向上を図る。また全校集会で挨拶についての意識向上を図る。
			登下校時の通学マナーの向上	通学アンケートを実施し、生徒自身が通学マナーについての自己評価を行う機会を設定する。また列車指導、自転車立哨指導を定期的に実施する。	B	学校生活アンケートの形式が変更となり通学マナーについての自己評価ができなかった。しかし、全校集会での講話や列車指導、自転車立哨指導によって通学マナーは向上した。	列車マナーは以前に比べると改善しているが、生徒自ら席を譲る気遣いについてさらなる指導が必要である。
	○人権・同和教育	人権・同和教育の推進	いじめ、差別などの人権問題に関心を持ち、積極的に取り組む生徒を育成する	・1年ネットいじめ、2年ノーマライゼーション、3年進路保障のテーマで、1・2年生は9月、3年生は6月に人権学習・進路保障ホームルームを実施する。 ・11月に部落問題学習に関する講演会とホームルームを実施する。	B	人権学習・進路保障ホームルームは、各学年とも、電子黒板を使用するなど工夫が見られた。また、担任が自分の体験を述べるなど生徒が関心を持つことができた。 部落問題学習は、映画の一場面を使うものであったが、古い映画であったので、画質や音質に少し問題があったようだ。	佐賀県教育委員会より、人権学習・進路保障ホームルームで、部落問題を扱って欲しいという要望がきている。当然、本校も検討しなければならないが、そのためには、地歴公民の授業で、部落史などを丁寧に行う必要があるだろう。
	●いじめ問題への対応	早期発見、実態把握に向けた全校的な体制の推進	学校生活において、他者への思いやりの心を育てることで生徒一人ひとりが安心・安全に学校生活を送れるようにする。	学校生活アンケートを実施し、いじめの早期発見に努める。また全校集会の時間を利用しいじめ防止に向けて啓発を行う。	B	学校生活アンケートでのいじめ認知件数は0件であったが、申し出による認知件数は1件あった。全校集会でSNSを含むいじめ防止啓発を行った。	学校教育課からの通知にあるようにいじめは学校に必ずあるものだという認識に立ち、職員がいじめを早期に覚知、認知できるようにさらなる研修が必要である。また、SNSを使用したいじめについても校内研修が必要である。

②学力向上対策の推進による進路保障

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力向上	図書館利用の推進	生徒一人あたりの年間貸し出し冊数は8.5冊を目指す。	・朝読書や全校読書を通して生徒の図書館利用を促す。 ・図書館だよりで「新着本」を全て紹介し生徒の読書意欲を喚起する。 ・古い資料の廃棄等によって図書館の整備を進める。	A	・平成30年１月末現在で生徒一人あたり年間貸し出し冊数は7．6冊である。3月末までには目標を達成できると思われる。 ・図書館だよりの「先生の一冊」を「私の一冊」にリニューアルし、生徒からもおすすめ本の紹介をするようにした。 ・「図書廃棄委員会」を設立し、廃棄処理に取り組んだ。	・生徒や職員から本のリクエストをもっと多くする。そのために新聞の書評欄を活用する。 ・職員の朝読書への取り組みを徹底する。そのために時々朝礼時に啓発する。 ・年間を通して「廃棄委員会」を開催し、適切な資料管理を行う。
		基礎学力の定着	基礎力テストにおいて、平均9点以上の生徒数１割増および5点未満の生徒数1割減を目指す。	・各科、各クラスで基礎力テストに対する意識付けを行う。 ・プロジョクトVの強化	C	平均点９点以上獲得者は昨年比で半減、５点未満の生徒数1回平均1．6倍という結果であった。2年生は、昨年とくらべほぼ同数であったが、1，3年生が極端に不振であった。また、クラスによっても取り組みや結果に大きな差がでた。年度途中で、有効な対応策が打ち出せなかったことが、一因であると考える。	学校全体として、基礎学力の定着と家庭学習の習慣化というテストの意義を問い直したい。また、不合格者への対応も新たな取り組みを考えたい。
		家庭学習時間の増加	全学年で前年比１日平均30分増を目指す。	・各教科で課題等を適切に与えて、回収する指導を行う。 ・適正な帰宅時間を習慣づける。	C	生徒アンケートの結果からは、昨年に対して現状維持であった。また、職員アンケートで、課題等の内容や量が適切でないと答えた者が少なくなく、生徒家庭学習時間が増加しない一因と考えられる。生徒、職員ともに学習に対する意識向上が必要である。	・各教科で適切な課題や学習指導について、再検討をする。 ・生徒の生活時間（起床・就寝、帰宅時間など）の把握をきちんと行い、対策を立てる。
	○進路保障	進路意識の形成	生徒自身が、自己の進路目標を明確化・具体化するなど主体的に決定できるようにする。	・「進路のしおり」や「ポートフォリオ」を活用したLHRの充実を図る。 ・企業訪問や新聞記事等の進路に関する情報を提供し、進路に対する意識の高揚を図る。 ・県内企業紹介会や進路ガイダンスを実施し進路目標の設定や進路選択に役立てる。 ・インターネットを活用して企業や学校について調べさせる。	B	・進路のしおりやポートフォリオの活用法についての指導を継続した結果、来室時に持参するなど活用する生徒も増加した。 ・県内企業紹介会や進路ガイダンスは効率よく実施でき、生徒の意識向上に繋がったと考えるが、一部の生徒にあっては第一希望のみに留まってしまい、次への対応が遅れることもあった。	・一次試験では高い合格率を出すことができたが、不合格となった生徒が、次への移行に時間がかかりすぎる等の課題解決を図る。 ・進路目標達成のために必要な方策や取り組みを計画的に実行する能力の育成が課題。
		進路保障	就職内定率・進学決定率共に100%を目指す。	・選考試験一次合格率90%以上を達成するため、進路対策補習や模擬面接を充実し、基礎学力および面接時の対応力の向上を図る。 ・前年度までの受験報告書を活用した受験対策を立てさせ、目標達成のための努力を継続させる。 ・継続した個人面談および進路相談の実施により、進路選択から決定までの支援を徹底する。	B	・一次合格率95．3%という高い合格率であったが、不合格となった生徒の中には、次の対応や意思決定ができず戸惑う生徒が見られた。 ・同窓会やPTA役員の協力により模擬面接指導の充実を図ることができた。 ・過去の受験報告書やICTを活用した受験対策を多くの生徒が実行することができた。	・自己理解を深めるとともに、目標とする進路の情報や業界状況等を踏まえた進路目標を設定させることによってミスマッチの減少を図る。 ・進路ガイダンスや企業紹介会などのキャリア教育を充実する。
	○資格取得	資格取得指導	ジュニアマイスター認定 ゴールド10名、シルバー25名、校内表彰80名以上	・顕彰制度、表彰制度を生徒・保護者・職員へ周知させる。 ・資格取得、コンクール参加を奨励、補習体制の充実	A	ジュニアマイスターとしてゴールド10名、シルバー28名、校内表彰76名とほぼ目標を達成することができた。ここ数年の中では受賞者数が多かった。	顕彰制度や校内表彰について理解を深めることで各人が目標をもち学ぶ意欲につながる。資格検定の案内を勉脩などを利用して生徒・保護者に伝えていきたい。
		ものづくり	各種競技会や公募展・コンクールなどに積極的に出場・出品をさせ、最優秀賞または1位を目標に、多数の入賞を目指す。	・授業・補習等の指導を物心両面から充実させ競技会へ万全の体制で挑ませる。 ・公募展の主旨説明を行うなど積極的参加を奨励し、授業・補習・部活動など多方面からの指導を行う。	B	全国高校デザイン選手権で準優勝、明るい選挙啓発ポスターでは、文部科学大臣・総務大臣賞受賞と輝かしい結果を残した。また、佐賀県高等学校ものづくり溶接競技大会では第3位、工業技術研究発表大会ではシーケンス制御の部第3位・機械製図の部第3位であった。	積極的に公募へ挑戦するよう指導し、結果を残すことで自信をつけさせたい。上位入賞を逃した競技も十分な実力は付けてきている。指導方法の工夫や外部講師の起用で指導を強化していきたい。

③生徒会活動、部活動の活性化と文武心三道の確立

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策

教育活動	○部活動・学校行事の活性化	学校行事の充実	学校行事への全生徒・全職員の主体的参加	・事前準備と指導、連絡を早期よりしっかりと行い、全職員、生徒で作る行事にする。 ・職員と生徒の意見を随時聞き取りながら、常に方向性を吟味する。 ・生徒会職員、生徒執行部を中心に必要に応じてクラス、学年、科、部活動、全体のまとまりある連携を取りながら進める。	B	・行事の事前準備に際して、十分な準備期間を持つことができなかった。そのため、例年通りの方向で行事を進めることが多くなってしまった。 ・大まかには業務の割り振りができたので、昨年より個別に仕事量が偏ることはなかったが、まとまりや連携は薄かったと感じた。	・十分な準備期間を確保するために、月に1度の生徒会執行部の話し合いの時間を設定し、翌月の行事に備える。 ・一体となる行事に向けて、生徒から得た意見を参考に吟味する。
		部活動の充実	各部の積極的な取り組みと目標達成	・顧問会議を通して情報交換を行い、活性化に向けた提案などを受ける。 ・生徒の実態を把握した上で、主体的な活動としての部活動を作り上げる。 ・部活動の成果として、精神的協調、協力、身体的成長、練磨をあげる。	C	・各部活動間での情報交換や共通理解がまだまだ必要だと感じた。 ・部活動の成果を測る尺度が難しいが、普段の学校生活の中で、挨拶や礼儀、学年を超えた交友関係など、部活動が培った成果は多く見られた。	・各部の目標などを共有する取り組みを行う。 ・部活動入部を斡旋し、学校全体で志気を高める。

④UDと5S運動（整理　整頓　清潔　清掃　躾）の推進

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 （左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	○生徒会活動	UD思考の考え	UDの視点を取り入れたものづくり、ボランティア活動、UDの啓蒙活動の実施	・課題研究などを通して、UDの視点を推奨したものづくりを勧める。 ・学校周辺の環境美化に貢献する。 ・月1、学期1の新聞発行を通して、震災支援や防災、UDの啓蒙を行う。	B	・UDの思考が根底にある防災に関する新聞づくりは、より深く生徒に寄り添った原稿づくりができた。 ・学校周辺清掃活動においては、より効率的な活動内容を検討すべきである。	・清掃活動の時間帯や清掃区域、参加人数などを十分に検討して、参加しやすい活動を実施する。
	●心の教育	環境整備・美化	5S運動を推進し、安全教育の充実と環境意識を高める。	・保健便りや校内掲示等を通して、ものを大切にする意識の向上に努める。	B	HRや集会等を通して学校全体で整理、整頓、清掃、安全点検の徹底に努め、校内の環境がほぼきちんと維持されている。今後も5S運動の意義に対する情報発信を継続して行う。	地元企業の5S運動への取り組みについて資料を提供していただき、その情報を生徒へ発信し、5Sへの関心をさらに高める。 生徒会とも連携して私物のごみの持ち帰り処分や、資源物の利活用の心がけの大切さについて継続して呼びかけていく。

⑤保護者、地域、産業界との連携強化と特色ある教育の推進

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 （左記の理由）	具体的な改善策・向上策
学校経営	○開かれた学校づくり	保護者会との連携	PTA総会の出席率85％以上を目指す。	講演会や進路情報などで保護者が関心を持てる内容を行う。	C	出席率80％ 例年80％ほどである。他校と比べても低い数字ではないが90％近い実績を出している学校もある。ただ内容は本校とさほど変わりはないので、PTA役員さんとさらに協議していかなければならない。	休日行事なので早く終えるよう工夫する。 例えばクラス面談が午前中に終えるよう講演会をなくす。 PTA活動報告を簡略化する。
		情報発信	ホームページの内容の充実および保護者への浸透。少なくとも週に複数回の更新	・逐次ホームページの情報を更新する。学校案内などとの整合性を保つ。 ・ホームページ管理更新の組織を明確にし、更新人員の拡充を行う。	B	ホームページの責任者を各科明確にし、主な行事・イベントなどの情報を極力発信した。	今後もホームページの更新を行い、常に新しい情報をアップしていきたい。ただし、情報内容に対し、個人情報などが含まれていないか注意を要する。
教育活動	○キャリア教育支援	キャリア教育の充実	キャリア教育に関する生徒満足度80％以上 生徒の希望するインターンシップ受け入れ事業所を確保する。	・将来の進路を想像できる実技や講義を計画的に実施する。 ・実際に生徒が就職した実績のある事業所を開拓する。	C	キャリア教育のアンケート結果では84％以上の生徒が働くことの意義・将来の自分の進路について考えることができた。また、2年生4名・3年生2名が10日間の長期インターンシップ研修を行った。	事前指導を徹底し、礼儀指導や応対マナーなどを指導していきたい。インターンシップ先として可能な限り専門的知識を生かせる職場を体験させたいと思っているが、生徒の希望と事業所とのマッチングが今後の課題となる。
	◎教育の質向上に向けた、ICT利活用教育の実施	授業・校務でのスキルアップ	ICTを利活用した授業展開を念頭においた研修会への職員参加100％を目指す。	・学期に1回、校内ICT利活用職員研修を行う。 ・研修で得たスキルを授業等で実践し、各教科間で高め合う。	B	県のICT基本スキル研修（本校実施）に参加を呼びかけた。2学期末よりICT通信の発行を始め、授業・校務処理に役立つ情報提供及び記事内容についてQ＆A方式のミニ研修を実施した。	求めるICTスキルは職場により異なるので、職員のニーズに応じた情報提供のため、ICT通信の充実と個別に取り組める研修素材を準備する。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 （左記の理由）	具体的な改善策
教育活動	●健康・体つくり	望ましい生活習慣の形成	口腔内の健康に対する意識を高め、歯科受診率30％以上を目指す。	・保健便りや食育便り等について、歯科の健康に関する情報を増やすとともに、定期健康診断結果の早めの通知と、学期末の再連絡を行う。	C	歯科受診率は、各学年とも10％以下となり目標の30％以上にならなかった。次年度の新3年生の未処置者の受診率の向上が特に課題としてあげられる。	保健便りや食育便りでの口腔内健康の維持管理の重要性に関する内容を増やすとともに、長期休業前等の集会時での生徒への受診治療の呼びかけを継続して行う。

4　本年度のまとめ ・ 次年度の取組

学校教育目標の実現に向け、各校務分掌で具体的な目標を掲げ、保護者や地域の協力を得ながら、学校全体で取り組んだ。昨年度の有田焼創業400年に関わる種々の行事や「先導的な教育体制構築事業」研究指定校での実践を通して、継続的に地域との連携や「新たな学び」について考え、活動することができた。その結果、全体として概ね目標を達成できたと考えるが、具体的には工務情報、図書館利用について良い評価がなされた一方、基礎学力の定着、家庭学習時間、保護者との連携、望ましい生活習慣の形成（口腔健康）は不十分との結果であった。特に、学習に関する項目の達成度が低く、学習への取り組みについて意識を高める努力をしなければならないと考える。次年度は、本年度の反省を踏まえ、工業高校としてより魅力のある学校を作るべく生徒・職員一体となって、改善の努力を図りたい。また、中学校や地域に本校をアピールするための情報発信や広報活動に力を入れていきたい。

●は共通評価項目、○は独自評価項目